

令和6年度 学校評価結果報告書(高等学校用)

(1) 学校教育目標	夢や志の実現に向け、知・徳・体の調和のとれた心身ともに逞しい人間の育成と、自分で考え自分の意志で行動できる力を育む教育を推進する。
(2) 現状と課題	本校生徒は、素直でおおらかで部活動にも熱心に取り組んでいる。生徒が自らの将来を見据え、主体的に学び行動するところ、相手の気持ちに寄り添った言葉遣いや適切なコミュニケーション能力の育成が課題である。進路は、就職から進学まで多様であり、基礎学力の向上、資格取得指導の強化が求められる。生徒の学習意欲を高め、主体的に取り組む姿勢を育てていく必要がある。
(3) 重点目標	1 規律ある学校生活と豊かな心を育む【○基本的な生活習慣の確立 ○安全・安心な学校生活】
	2 確かな学力を育む【○基礎・基本の徹底 ○教師の指導力向上】
	3 夢や志の実現を支援する【○キャリア教育の充実】
	4 地域校としての役割を果たす【○保護者との連携 ○地域・関係機関との連携】
(4) 結果の公表	通知票に同封し郵送する。各種広報資料、学校ホームページ、PTA総会等において、学校教育活動の評価報告を公表する。

学校整理番号	22
学 校 名	青森県立六ヶ所高等学校
課程	全日制の課程

自己評価実施日	令和7年1月29日(水)
学校関係者評価実施日	令和7年1月31日(金)

(9) -イ 学校関係者評価委員会の構成	
学校評議員4名 ・学校医 1名 ・後援会理事長 1名 ・元PTA会員 1名 ・会社役員 1名	

自 己 評 価					学校関係者評価
番号	(5) 評価項目	(6) 具体的方策	(7) 具体的方策による目標の達成状況	(8) 目標の達成度	(9) -ア 学校関係者からの意見・要望・評価等
1	規律ある学校生活と豊かな心を育む	①挨拶の励行、服装の確立、時間厳守の徹底に取り組む。 ②すべての教育活動を通して、自己有用感の育成、部活動を通して、責任感、思いやりの育成に取り組む。 ③いじめの早期発見、対応、命を大切に教育、一人一人に寄り添った教育相談に取り組む。	①毎日、生徒指導部と生徒による登校指導を実施した。毎月第3週は、全教員による登校指導を実施し、明るく元気な挨拶の定着を試みた。 ②高校生活を心から楽しむために、生徒が主役となるように学校行事や部活動を運営し、生徒に達成感を味わわせ、自己有用感、思いやりを育成することができた。 ③いじめ防止委員会を定期開催して課題の確認を行い、未然防止に努めた。日頃から、いじめや問題行動の早期発見、早期対応を目指し、全教職員で情報共有を図り迅速な対応を行った結果、重大事案とはならなかった。	B	・校風でもあるあいさつや礼節を重んじた教育活動の推進は本校の魅力化の向上に大きく寄与するものと期待する。 ・例年と比較し、いじめや特別指導件数が増加傾向にあり、重要なインシデント事案として再発防止に努められたい。
2	確かな学力を育む	①学習意欲を高める「わかる授業」の実践、主体的、対話的で深い学びの実現のため、ユニバーサルデザインの視点に立ち、生徒の学習支援を進める。 ②ICT活用による学習効率の向上について、校内研修を実施し、全校体制で授業改善を進める。 ③公開・研究授業への参加を促し、校内外の研修に積極的に取り組む。	①学習アンケートでは、ほとんどの生徒が「授業は楽しい」「わかりやすい」と回答していた。全ての教科において、わかる授業を展開し、生徒が主体的に楽しく学べる環境を整えることにより、授業に対する満足度が高まった。 ②スタディサブリの活用やユニバーサルデザインの視点に関する校内研修を実施し、チーム六高での授業改善を心がけたことにより、切磋琢磨しながら授業力向上が図られた。 ③村の小中高教科連携協議会を活用して、異校種との交流によって生徒支援に理解を深め、教員の指導力向上を図った。また、県総合学校教育センターの指導主事を招聘して研修を進めたことにより、授業力がより高まった。	A	・スタディサブリのポートフォリオ機能を活用した教育体系（強み伸ばし弱みを克服できるPDCA）の構築は学力向上に効果的と考える。 ・本校の教育活動に関して積極的な情報発信に取組み、地域校としての存在意義の向上が図られたことを高く評価する。
3	夢や志の実現を支援する	①三年間を見通した進路指導計画とその実践、学年に応じた総合的な探究の時間と連動したキャリア教育の実践に取り組む。 ②二者・三者面談を充実させ、生徒・保護者への情報提供と共有ができるよう取り組む。 ③就職支援、進学指導体制の充実を目指し、放課後に進路セミナーを企画し、組織的に取り組む。	①進路指導部と各学年とで年間計画を調整し、充実した進路指導を実践できた。総合的な探究の時間は、外部機関と連携した取組を行い、生徒のキャリア教育の充実を図ることができた。 ②生徒が主体的に進路選択できるよう、進路指導部と学年が連携し、進路実現を図る取組ができた ③進路指導部と学年の連携により、朝学習でスタディサブリを活用した。放課後には、就職・進学のために志望理由書対策等の進路セミナーを行った。大学入試の学校推薦入試や総合型選抜入試等で成果を上げた。	B	・進路指導戦力における「総合的探究の時間」の有効活用は、生徒の自主性や自立を促す有効手段と考える。進学受験や就職活動を念頭に置いたテーマの設定とスケジュール感との検討を要望する。
4	地域校としての役割を果たす	①学校新聞、学校ホームページ等による学校情報の積極的な配信に取り組む。 ②地域等との協働による「人づくり」の実践に取り組む、多様な進路目標達成を支援する。 ③地域校活性化協議会を踏まえた本校の活性化、教育環境の充実に取り組む。	①学校ホームページ更新を継続し、最新の学校情報を発信できた。また、総合的な探究の時間の指導体制を充実させ、講師や地域関係者を招聘して成果発表会を六ヶ所村交流プラザで行った。 ②村内の外部機関に対して積極的に講師を依頼し、地域社会に対する理解を深める試みを実施した。授業や特別活動を通じて、地域や社会で積極的に役割を果たそうとする姿勢を育成することができた。 ③昨年度、策定した活性化のための方策を実践し、進学支援を中心に充実を図った。村役場や各機関の企画する事業への積極的な参加を促した。	A	・地域校として地域社会との関りに積極的に取組み、発信力の向上に努めた功績は大。今後は、学校運営協議会での議論を踏まえた教育環境の更なる充実に期待したい。